

1 日目 経済学から見た「簿記論」

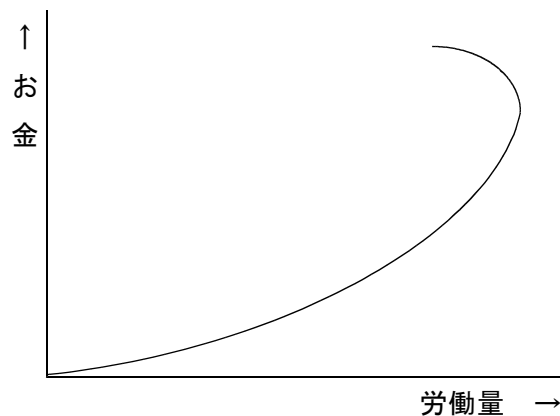
月 日()

【今日の要点】

- ①経済学は、'人間の欲望'や'思惑'を含めて考える学問である
- ②ミクロ経済学でいう「利潤＝総収入－総費用」と、簿記上の「収益－費用＝純利益」は、全く違う考え方である
- ③生産者(企業)の行動を→「記録」・「計算」・「整理」するのが簿記である

1. 経済学とは(^o^)?

このグラフは、ミクロ経済学でベンキョーする「労働の供給曲線」です(^o^)



供給とは?この場合は、労働者が'働くこと'です。たくさん働いたら→お金も増えますが、経済学で考える労働供給曲線は、あるところまで増えたら→ブーメランみたいに戻ってくるグラフになります。なぜか(-_-)?大ざっぱに言うと、フツウの人間は「ある程度まで働いたら→お金よりも休みが欲しくなる」ということを含めて考えているからです。

経済学では、「疲れたら休みたい(T_T)」とか「稼げるようになったらいい暮らしをしたい(*_*)」というような、人間の欲望や思惑を含めて考える学問です。経済学のベンキョーで「〇〇曲線」というのがたくさん出てくるのは、世の中が「まっすぐな直線」で片づけることが出来ないくらい複雑だということです(笑)。

これから学ぶ「簿記論」は、もちろん数式やグラフもたくさん出てきますが(^_^);、そのほとんどは「直線」で表すことが出来ます(^o^)♪それだけ、経済学に比べると?'わかりやすく単純なモノ'を扱った学問なのかもしれません(*_*)

2. ミクロ経済学から見た「簿記論」とは(*^_^*)?

経済学は、大ざっぱには?「マクロ経済」と「ミクロ経済」に分けることができます。前者は「世の中の景気がどうか?」とか「物価はどうか?」といったような、経済社会全体を捉えて考えています。これに対し、後者は「生産者(企業)」とか「消費者(家計)」という、ある程度小さい単位で物事を考えていきます。ミクロ経済では、'生産者と消費者が市場で出会って価格が形成される(^o^)'みたいな言い方がフツーに出てきます。。。

ミクロ経済学から「簿記論」を眺めると?→もっともっと小さな単位を扱うベンキョーに見えます。例えば?ミクロ経済なら、「生産者(企業)」が財やサービスを生み出し→それが市場でどう価格が形成されるか?→需要と供給のバランスで…となるところが、簿記では?その企業が作ってる「財」や「サービス」が一体いくらで作れてるのか(-_-)?そんな小さなハナシを計算していることになります。

ミクロ経済学で出てくる式で、

「利潤＝総収入－総費用」

というのがあります。経済の世界では、この'利潤'を最大化することが生産者(企業)の目的であると言えるのですが、簿記の世界ではこの式とよく似たもので

「収益－費用＝純利益」

というのが出てきます。ミクロ経済と簿記ではベンキョーする範囲が違うので、もちろん式の意味も違ったものです。大ざっぱに言うと?「上の式」のほうが大きな数字で、「下の式」はそれよりも小さな数字になります。その理由は?経済学では人間の欲望や思惑などが含まれるのに対し、簿記ではレシートや領収証などの'証拠'がある数字しか計算に入れてはいけないからです(*^_^*)

3. 簿記とは(^o^)?

ベンキョーの言葉では、「簿記とは、企業におけるさまざまな経営活動を、定められた帳簿に、継続的に記録・計算・整理する方法である」といいます(^_^;)ミクロ経済風(?)に言い換えると、「簿記とは、財の供給にかかる生産者行動を、記録・計算・整理すること」といったカンジでしょうか(^_^;)いずれにせよ、簿記自体は①記録・②計算・③整理という「作業」であり、タイピングやソロバンと同じような「実学」と言えます。「簿記論」は、その作業自体を→どうすればより速く正確に出来るか?ということ突き詰めて考える学問と言うことができます(*^_^*)

簿記とは、定められた帳簿に、継続的に

①記録・②計算・③整理

する方法である

4. 簿記の前提条件(*^_^*)

簿記のハナシをするときに、「これは当たり前が決まっていること」とされてる前提条件があります。前提条件というのは？

「これがなければ成り立たない(>_<)」

というものです。ベンキョーの言葉では「会計公準」と呼んでいますが、カンタンに言う？簿記を語るには「3つの約束事」がある…というハナシです(*^_^*)

- ①会計単位について…簿記では、お店(企業)の活動についてのみ扱うこと
(個人的なハナシは別会計である)
- ②会計期間について…簿記では、1年とか半年とかの「期間」に区切ること
(その区切った「期間」が繰り返されると考える)
- ③金額表示について…簿記では、お金で表せるハナシだけを扱うこと
(原則として、日本の簿記は「円」で表示すること)

例えば？どんな会社でも「会社は社長さんのもの」ではありません。株式会社だったら「株主のもの」であり、個人企業だったとしても「お店」と「店主個人」は全く別のハナシです。簿記で扱うのはお店や会社のハナシであって→個人的なことまでは扱わない！…というのが当たり前が決まっています。

また、会計期間については？大半の会社は「1年間」を区切りにして計算しています。自営業の個人でも？フツーは1月~12月までの1年間を区切りとして計算することになっています。毎年、「3月15日までに確定申告をしましょう＼(^o^)/」というのを聞いたことがあるかもですが、あれは？「1月~12月までの所得を計算して→翌年の3月15日までに税務署まで届けてください(*^_^*)」という意味です。

3つめの「金額表示」は、難しい言葉だったら「貨幣的測定の公準」と呼ばれているハナシです。①お金で測れないハナシは簿記で扱わない！ということと、②ドルやユーロみたいなお金でも→円に直して書くように！という2点について書いてあります。簿記は「記録・計算・整理」することなので、

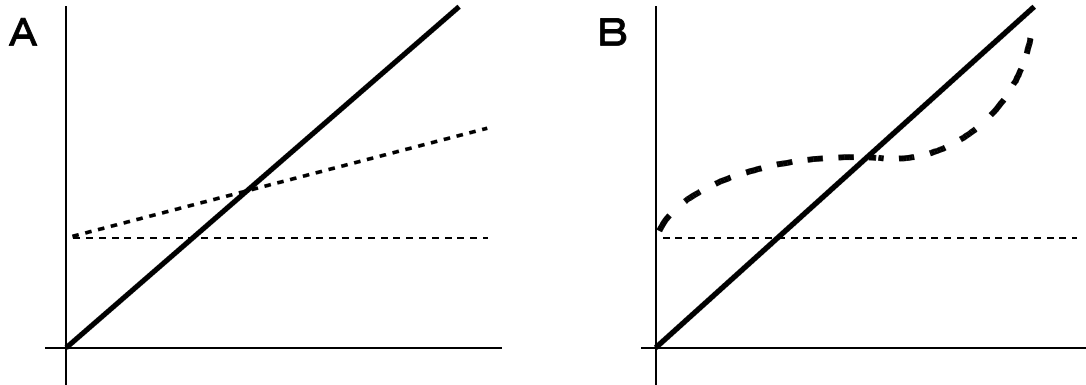
「店長がオトコマエ(*^_^*) ♪」…とか

「みんなで力を合わせてがんばってます＼(^o^)/」…とか


そんなことを帳簿に書いても？計算することが出来ません(^_^;)

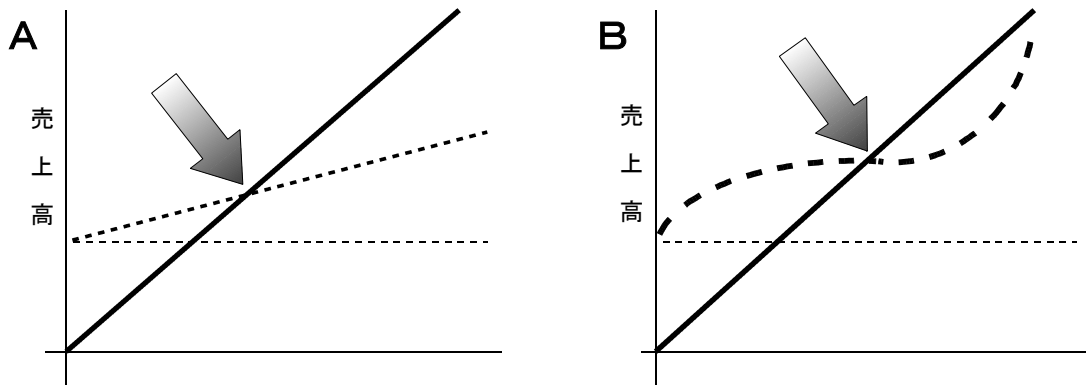
経済学部のアナタへ＼(^o^)/

2つのグラフを見比べてください(*^_^*)



さて、どちらが経済学で出てくるグラフでしょうか(^o^)? 答はBです♪「逆S字曲線」になってる点線は、「可変費用」つまり「忙しくなるにつれて増える費用」のことです。経済の世界では? 「人間の欲望」や「思惑」も含めて考えるので、このような曲線になってきます。

ところで(^o^)? この2つのグラフ、どちらも「損益分岐点」を示すものです。矢印で示す、グラフの交点が損益分岐点で→大ざっぱに言うと? 会社の売上高がそこまで届いていればひとまず安心、それまでの間はずっと赤字になってるということです。損益分岐点は、ビジネスの世界ではあまりにも有名なハナシです(*^_^*)



工業簿記のベンキョーをすると、

- ・ グラフの意味を読み取ったり(^o^)
- ・ 矢印が示す「損益分岐点」を計算で求めたり(^o^)
- ・ 赤字や黒字の「幅」を求めたり(^o^)

いろんなことが出来るようになります。ミクロ経済学のベンキョーも、今まで以上によくわかるようになるはず(*^_^*)

しっかりベンキョーして♪


→「よりよく生きるための糧(かて)」にしてください＼(^o^)/

書店では買えない本？

みなさんの中にも商業高校出身の人がいるかもしれません。商業高校では英語・数学・国語・・・みたいなフツ一の科目だけじゃなくて「簿記」とか「会計」とかもベンキョーします。この授業に関連が深い「原価計算」や「管理会計」も習っただろうと思います(^o^)

商業高校 教科書

検索



「とにかく易しい本がいい(T_T)」という人には、このテキストも易しく書いてるつもりですが・・・商業高校の教科書もおすすめします。フツ一の本屋さんで教科書は取り扱っていないので、インターネットで入手するのが便利です。値段はだいたい1冊1000円～1500円くらい。ワタシもネット注文でいろいろ買っています。

もちろん！あなたの周りに商業高校出身の子がいたら？譲ってもらうのが一番いいかもしれません(*_~*)

1日目 経済学から見た「簿記論」

おすすめの本など(^o^)



専門書

『原価計算 六訂版』岡本清 著／国元書房（2000/4）

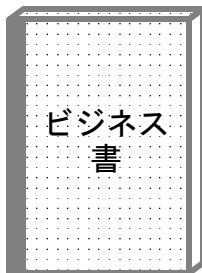
初版は何と昭和48年！厚さ6cmもある大著です。原価計算や管理会計でこの本より後から出版されてるものは、そのほとんどがこの本を参考文献としてリストアップしているはず。それくらい有名な本です。一度は図書館などで開いてみてください。



専門書

『管理会計 第2版』岡本清・廣本敏郎・尾畑裕・挽文子 著／中央経済社（2008/4）

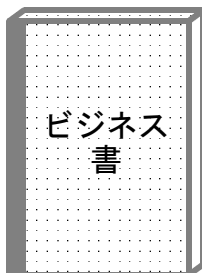
原価計算は大ざっぱに言うと「1ついくらで作れたか？」で、管理会計はその続きで「それでいいの？」とか「より良くするにはどうするか？」という分野になります。このテキストでは8日目以降で管理会計っぽい内容を取り上げていますが、授業で習うことはホントに「氷山の一角」なのがわかる本です(笑)。



ビジネス書

『やさしくわかる原価計算』都甲和幸・白土英成 著／日本実業出版社（1999/1）

分厚い本はとっつきにくい人は、学術書ではなくビジネス書から読めばええと思います。ワタシも学生時代はそうでした。この本はホントにわかりやすく今でも手元に置いてあります。パラパラ見るだけでも「原価計算」というペンキョーの全体像がイメージ出来ると思います。

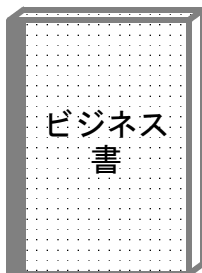


ビジネス書

『イラスト図解 工場のしくみ』

松林 光男・渡部 弘 著／日本実業出版社（2004/8）

工業簿記を学ぶには、製造業とは何か？を知るのが手っ取り早いです。ビジネス書なのでペンキョーの本に比べると読みやすいと思います。モノの作り方によって原価計算の方法は変わります。



ビジネス書

『シブすぎ技術に男泣き！』 見ル野 栄司 著／中経出版（2010/1）

ものづくり現場で働く人たちのコミックエッセイです(笑)。工業簿記のペンキョーには直接関係ないかと思いますが、実際のものづくり現場を見学しているような錯覚に陥ります。絵は少年漫画風というかエレガントではないけれど、クセになったらさらに同じ著者による『工場虫』という続編も発刊されてます。

2日目 工業簿記概論

月 日()

【今日の要点】

- ①工業簿記は、製造業向けの簿記である
- ②作り方に合った、いろいろな原価計算方法がある
- ③工業簿記の世界では、「原価計算基準」がルールブックである

1. 工業簿記とは(^o^)?

工業簿記とは、自分で売りモノを作ってる人(製造業)向けの簿記です。簿記にはいろいろな種類があって、販売業向けの「商業簿記」や、銀行などの「銀行簿記」、病院などの「医療簿記」、建設業向けの「建設簿記」などがあります。

例えば?パンやさんでも→パンを買ってきて(仕入れ)→利益をつけて売る(販売)だけなら?「商業簿記」が合っています。ところが、自分でパンを焼いて(自製)→売る(販売)だったら?「工業簿記」が合っています。パンに限らず、自分で売りモノを作っている場合には、

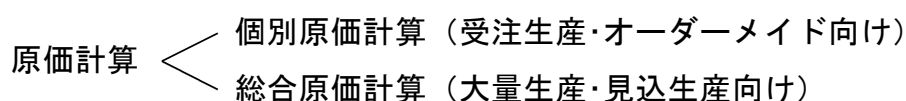
「1ついくらで作れてるのか?」

を計算しなくてははいけません。パンだったら?小麦粉+水+砂糖などをどれだけ入れて→電気代とかガス代をどれだけ使って→人件費もかかるだろうし→たまには失敗もするだろうけど(^_^;)→結局、1ついくらで作れたのか?その金額に利益をつけて売らないと、商売としては儲かりません。

「1ついくらで作れたか?」を計算することを、原価計算と言います。工業簿記の大きな特徴は、フツーに帳簿を書くだけではなく、原価計算が簿記の中に組み込まれているところです。原価計算はモノの作り方に合わせていろいろな種類があります。原価計算は非常に重要で、仮に1円間違えただけでも?→年間1億個が売れる商品だったら→1億円の間違ひになります(^_^;)但し、細かい計算をすればするほど→計算自体に人件費などのコストがかかるので(T_T)→どの程度まで計算するか?も考えないとはいけません。

2. 原価計算の種類(*^_^*)

原価計算は、大きく分けると2種類しかありません。



図にすると、こんなカンジです(^o^)♪



個別原価計算は、フツーは1つずつ原価を計算するので→材料・人件費・その他経費などを足し算するだけで求められます。同じ会社で2つ以上のモノを作っていると、そのどちらにも使える共通費が出てくる可能性がある→共通費を各自でワリカンするのが主な仕事になります。それが「部門別計算」になると？→ワリカンの仕方が細かくなり→モノを作っていく過程ごとにワリカン基準を考える…そんな計算が必要になります。

総合原価計算は、大量生産をしている場合の計算方法です。いくつ作ったか？大量生産の場合はそれが数え切れないくらいの数になるので→作った数を知るためには？「まだ出来てない分」から逆算して求めることになります。最後に、全体の原価を「作った数」で割り算して→1つ当たりの原価を出すという手順です。フツーの単純総合以外にも、必要に応じて「工程別」や「等級別」・「組別」などの計算方法もベンキョーしていきます(^o^)

標準原価計算と直接原価計算は、ちゃんと自分が作ってるモノの原価が出せるようになってから→その応用としてベンキョーすることです。標準原価計算は「標準」と自分を比べ→高いのか？安いのか？などを比較分析して→原価を管理していきます。直接原価計算は「いくつ売ったら家賃が払えるか？」などの、利益計画に用いられる計算手法です。

本社工場会計は、原価計算そのものではなくて「帳簿の書き方」になります。本社工場で材料を仕入れて→それを工場に売って→作った製品を本社工場に売る…みたいなことがフツーに行われています(^_^;)

3. 原価計算の具体例(*^_^*)

例えば、「お弁当屋さん」の場合で考えてみると？

お店の特徴	お勧めの計算方法
<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の要望に合わせたお弁当を作っている ・原則として、最初から最後まで1人で作っている 	単純個別原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の要望に合わせたお弁当を作っている ・「ゴハン責任者」とか「揚げ物責任者」が決まっている 	部門別個別原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・作業の一連の流れが機械化されている 	単純総合原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・「ゴハンのみ」や「トッピング」のメニューがある 	工程別総合原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・同じメニューでも？「洋風」と「和風」がある 	組別総合原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・決まった種類のお弁当を大量に作っている ・メニューに「大盛り」や「小盛り」がある 	等級別総合原価計算

こんなカンジです(^o^)それぞれの原価計算方法がどんなものであるか？は、これからじっくりとペンキョーしていくことになります。

ちゃんとお弁当の原価が計算出来るようになれば→いくらで売って？いくら儲かるのか？が正しくわかるようになるはずですが(^o^)さらにそこから知りたくなるのが…

知りたくなること	お勧めの計算方法
<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当を、ムダ・ムラ・ムリなく作れているか？ ・お弁当の原価をコントロールしたい 	標準原価計算
<ul style="list-style-type: none"> ・最低どれくらいの売上があればやっていけるのか？ ・もう1人雇うには？など、いろいろな計画を立てたい 	直接原価計算

あと、お弁当やさんがメチャメチャ大規模になって？→「本社」と「各店舗」というカンジになれば→「本社工場会計」が必要になってきます(^o^)統計学の知識や、微分や方程式などの数学、その他いろいろなペンキョーがお弁当やさんの経営を助けてくれるはずですが(*^_^*)♪

4. 「原価計算基準」について(^_^;)

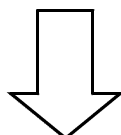
厳密には「法律」ではありませんが、工業簿記の世界にもルールブックのようなものが存在します。法律の世界だったら有名な「六法全書」みたいな本で→それが簿記だったら「会計法規集」というカタチでまとめているものです。その中に

『原価計算基準』 昭和37年11月8日 大蔵省企業会計審議会

というのがあり、これを頼りにすれば→正しい原価計算が導き出せるであろう…というものです。

『原価計算基準』の前文に、こんな一節があります(^o^)

原価計算基準は、かかる実践規範として、わが国現在の企業における原価計算の慣行のうちから、一般に公正妥当と認められるところを要約して設定されたものである。



この文章をカンタンにすると(^o^)?

原価計算基準は、ルールブックとして活用してもらえるように、今まで実務の世界で言い伝えられてきたいろいろなやり方のうち、「フツーに考えたら正しいはず(^o^)」と思えることだけを抜き取って作成されたものである。

この原価計算基準には、「原価とは何ぞや(-_-)?」というレベルから→各原価計算方法の細かい「やり方」とか、この世界に出てくるベンキョーの言葉の「定義」とか、ホントにルールブックとして頼りになることがたくさん書いてあります(*^_^*)

ただ、この原価計算基準が制定された「昭和37年」から→今までどれだけの年月が経ってるか(-_-)? この、約50年間で実務の世界(特に、工場などの製造現場)はものすごく様変わりしています。制定当時はまだ「高度経済成長時代」よりも前で、これより少し前の「昭和31年」には経済白書に

もはや、戦後ではない\(^o^)/

と書かれたその言葉が→その年の流行語になったような時代です(^_^;) もう歴史の教科書に載ってもいいくらい昔に制定された「原価計算基準」が、なぜ今まで一度も改訂されたり追加されたりすることもなく50年も経過したのか(-_-)? その理由も含めて、ワタシたちはこれから工業簿記のことをしっかりとベンキョーしていかななくてはなりません。

日商簿記検定を受験するには？

日商簿記検定は年に3回(1級は年2回)実施されています。6月第2日曜・11月第3日曜と、2月第4日曜です。1級と3級は午前、2級と4級は午後実施されるので、連続する2つの級なら同じ日に受験することが出来ます(^o^)

日商簿記検定

検索



ネット申込みも出来ますが、とりあえず「どこの商工会議所で受験するか？」を決めないといけません。どこで受けても日時や試験問題は同じです。申込みの受付期間とか、合格発表の日時や方法、もちろん受験の会場がどこになるかも申込みをする商工会議所によって異なります。まずは地元の商工会議所に申し込むのが無難かもしれません。

注意しないといけないのは、申込受付期間が意外と早いという点です。早ければ検定の2ヶ月前には始まって、1ヶ月前にはほとんどの商工会議所で受け付けを締め切ります。受験を考えたらず→まずは地元の「申込受付期間」を確認しないといけません。

あまり知られていませんが、日商簿記検定は4級からあります。簿記は基本が大切なので、3級から受験するとしても？ベンキョーは4級レベルからスタートすることをお勧めします。慌てずにコツコツと、いつかは1級合格までがんばって欲しいと思います(*^_^*)

2日目 工業簿記概論

おすすめの本など(^o^)



『新版 会計法規集 第8版』 中央経済社 編／中央経済社 (2015/9)

「原価計算基準」をはじめ、会計に関するルールを調べるための必須アイテムです。近年は新版が出るサイクルが早いので、買うときには必ず最新版を確認してくださいm(_ _)m



『原価計算論 第3版』 廣本敏郎・挽文子 著／中央経済社 (2015/4)

1日目のところで紹介した『原価計算 第六版』の新しいバージョンってカンジの本です。これも厚さ4cmくらいあります。読破するのは少し先でいいので、とりあえず今は？まず授業で習ったことを「この本にはどう書いてあるか？」というカンジで調べてみる・・・という辞書代わり風の使い方でもいいと思います。気がつけばドンドン読めるところが増えてくるはず。



『原価計算』 文部科学省検定済教科書／実教出版株式会社

この授業では割愛している「記帳」や「費目別計算」についても丁寧な解説があります。範囲としては授業で習うハナシの10日目あたりまで。巻末には「原価計算基準」が載っているので便利です。



『管理会計』 文部科学省検定済教科書／実教出版株式会社

大ざっぱに言うと、授業で扱っている内容の後半部分が「管理会計」と呼ばれる分野です。これから習う内容がどんなものか？予習にも使えます。その他、授業で取り上げていないものでは「品質原価計算」とか「設備投資の経済性計算」なども詳しく書いてあります。

3 日目 こべつげんかけいさん 個別原価計算の特徴

月 日()

【今日の要点】

- ①個別原価計算は、原価を個別に計算する方法である
- ②受注生産(オーダーメイド)に向いている
- ③キーワードは「せいぞうかんせつひ はいふ製造間接費の配賦」←(共通費をワリカンすること)

1. 個別原価計算とは(^o^)?

個別原価計算とは、フツーは受注生産(オーダーメイド)の場合に用いられる計算方法です。お客さんに頼まれてから作り始めるので、いろいろなお客さんがいたとしても?それぞれの注文ごとに原価を計算していきます。但し、いろいろな注文に共通で使える費用が発生しているときは→その部分をみんなでワリカンする必要が出てきます。日常生活の場合と同じく?

各自の負担額=自分で使ったお金+ワリカン負担分

ということです(^o^)日常生活ではワリカンと言えば「人数で割り算」が多いかもしれませんが、ベンキョーの世界では「何を基準にしてワリカンするか?」をものすごく真剣に考えます。ワリカン結果によって、お客さんが注文してくれた1つひとつの製品原価が大きく変わってくるのです。ってことは?その製品を売ることによる利益(儲け)も大きく変わってくるということです(^_^);

【例題1】

友達4人で遊びに行った帰り、終電に乗り遅れて→みんなでタクシーに乗ることになりました。タクシー代をワリカンする方法に、アナタならどのような方法が考えられますか(^o^)?

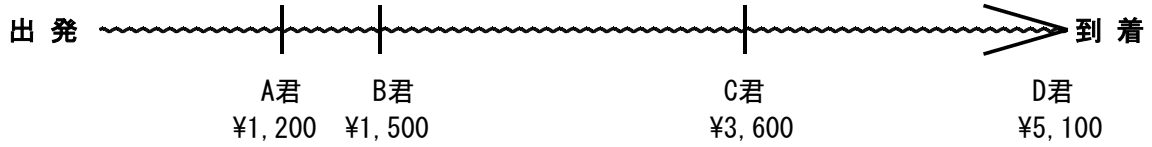
(アナタの解答)

(解答例)

- ・フツーに4で割る
 - ・家が遠い人と近い人で差をつける
 - ・お金持ちの人とビンボーな人を考慮する
- ・・・などでしょうか(^_^);?

【例題2】

みんなで話し合った結果、タクシー代のワリカンは「自宅に着いたときの料金メーターがいくらだったか？」の割合で計算することになりました。後日ケンカしないためにも、キッチリと計算してください(^o^)



- * タクシー代の合計5,100円を、A君・B君・C君・D君の4人でワリカンします
- * 10円未満の端数は四捨五入します

(アナタの解答)

A君	B君	C君	D君
円	円	円	円

(解答例)

A君	B君	C君	D君
540 円	670 円	1,610 円	2,280 円

(300で約分したら)

合計5,100円	}	A君	1200	4	→	$5100 \times 4 \div 38 = 536.84$	…約 540円
		B君	1500	5	→	$5100 \times 5 \div 38 = 671.05$	…約 670円
		C君	3600	12	→	$5100 \times 12 \div 38 = 1610.52$	…約 1,610円
		D君	5100	17	→	$5100 \times 17 \div 38 = 2281.57$	…約 2,280円
				計		38	計 5,100円

【例題3】

次の問いを、よく考えてみてくださいm(_ _)m

(1) もしフツーに4で割ってたら→1人当たりいくらになってたか？そうすると誰がどんな文句を言う可能性があると思いますか(^_^;)？

(あなたの解答)

(解答例)

フツーに4で割ったら→5,100円÷4人=1,275円/人となって→家が近いA君やB君からは「そんなに高いなら歩いて帰る(-_-)」と文句が出るかもしれません。でも？みんな仲良しだったら文句は出ないかも知れません(^_^;)

(2) ワリカン方法の決め方に、「もめないコツ♪」があるなら→それは何でしょう(^o^)?

(あなたの解答)

(解答例)

「男前が払う(^o^)」みたいな条件だと譲り合い(?)になるので、少なくとも「数字で表せる条件」でないといけません。出来ればその恩恵を受けてる「量」に比例しているほうが全員が納得しやすいのかも(*^_^*)

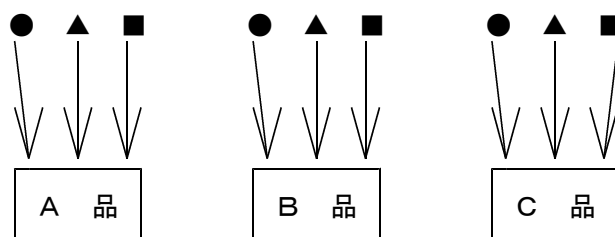
2 共通費のワリカン基準(*^_^*)

モノの原価は、材料費や人件費などいろいろな費用で出来ています。それらがハッキリと「どの製品を作るために使ってるのか？」がわかる場合とわからない場合とがあります(^_^;)

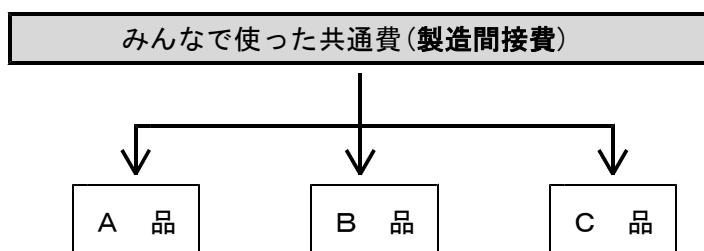
- ・ どの製品の費用かハッキリわかる→「直接費である(^o^)」という
- ・ ハッキリ決められないとき→「間接費である(^o^)」という

間接費は、個別原価計算の場合は「製造間接費」という名前でまとめるのがフツーですが、もしも大量生産なんかで総合原価計算を採用している場合には「くみかんせつひ組間接費」という名前になったりします。いずれにせよ、間接費とは「みんなで使った共通費」なので→何かの基準でワリカンしなければなりません。

〔受注生産の場合〕

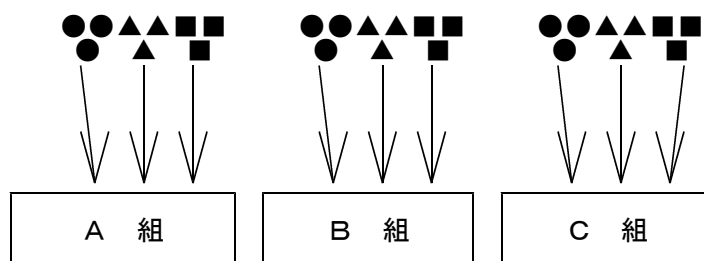


ハッキリわかる費用は
ちよつか
「直課」します(^o^)

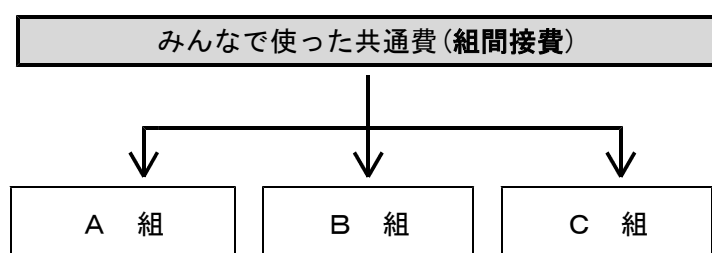


製造間接費は
はいふ
「配賦」します(^o^)

〔大量生産の場合〕



ハッキリわかる費用は
ちよつか
「直課」します(^o^)



組間接費は
あんぶん
「按分」します(^o^)

……というわけで、どちらもほとんど同じです(*^_^*) ♪

共通費のワリカン基準のことを、「間接費の配賦基準」といいます(^o^)大ざっぱに言うと？配賦基準は数字でなければならず、ペンキョーの世界では「金額法」と「時間法」があります。

①「金額法」…何かの金額の割合で決める

(例: 直接材料費の何%とか、直接労務費の何%とか)

②「時間法」…何かの「1時間当たりの金額」で決める

(例: 直接作業時間の1時間当たりとか、機械運転時間の1時間当たりとか)

3 製造指図書と原価計算表(^o^)

個別原価計算の場合、お客さんに「頼まれて」から作っています。頼まれる(=受注する)つど、ベンキョーの世界では「製造指図書」が発行されます。ファミレスでもテーブルごとに伝票があるのと同じです。個別原価計算ではオーダーごとに、①受注→②製造→③完成→④納品のプロセスを管理していかないとはいけません。

注文ごとの番号

製造指図書				# 101
受注	月	日	着手	月 日
完成	月	日	納品	月 日
品名			数量	
備考				

別の言い方をすると(^o^)? 「材料をどれだけ使った」とか「人件費をどれだけ使った」というハナシのときに、それらのデータに「指図書#」が書いてあれば→「直接費」です。なければ「間接費」です。

指図書#ごとに、「直接材料費」「直接労務費」「製造間接費」をいくらずつ使っているか?を集計したものが「原価計算表」です。フツはクロス集計になっていて、①「指図書ごと」の合計と「費目別」の合計がわかるように作られています。

原 価 計 算 表

	# 101	# 102	# 103	合 計
直接材料費				
直接労務費				
製造間接費				
合 計				行計とヨ計を合わせる

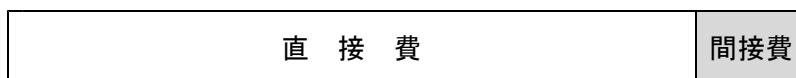
直接材料費と直接労務費は、初めから「どの注文のために使われたのか?」がわかっているものです。どの注文のために使ったかハッキリわからない「共通費」が製造間接費であり、中身は間接材料費・間接労務費・間接経費で出来ています。製造間接費は何らかの基準でワリカンして→「指図書ごと」の原価の合計が決まります。

製造指図書は、お客さんから注文を受けたときだけでなく→「失敗して作り直すとき」でも発行されます(^_^;)例えば? #101が失敗して→作り直すときには#101-1...ってカンジで、フツは元の番号に「枝番」を付けたカタチで発行します。

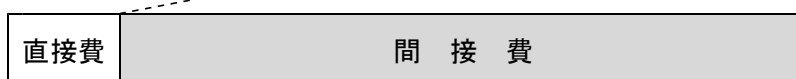
4 共通費が抱える問題点(^_^;)

みんなですべての共通費をワリカンすること自体は？そのワリカン基準さえしっかりしていたらあまり問題はないかもしれませんが、但し、ワリカンを必要とする部分の全体に占める割合が

昔はこんなカンジ？

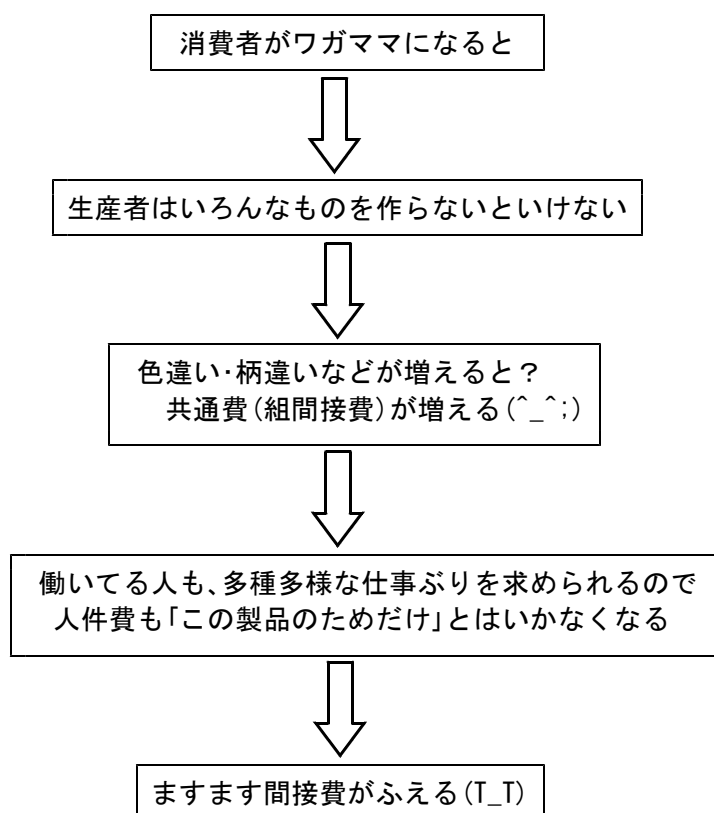


時代とともに今は…



というふうに変化してきています(^_^;)

間接費が増えてきた原因とは？11日目の「活動基準原価計算」でもベンキョーしますが、消費者の好みがワガママになってきていることが挙げられます。



こんなカンジで間接費はドンドンと増えていきます(^_^;)モノの原価を正確に知りたいと思っても→その大部分がワリカンの結果によるということ→ホントにその原価でよかったのか(-_-)？いろいろ心配になるはず。そこで、間接費のワリカンについてはまた、11日目の「活動基準原価計算」で全く違った発想についてベンキョーしたいと思います(*^_^*)